



多文化共生を考える



図▷記事について…広報統計課 ☎43-9317 ▷多文化共生について…市民連携推進課 ☎43-9257

市では、国籍にかかわらず、全ての住民が互いの文化などを尊重し、対等な関係を築きながら、共に地域社会で暮らすことを目指し、多文化共生の推進に取り組んでいます。

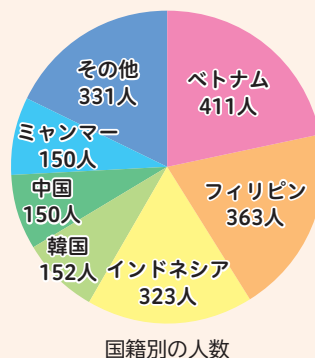
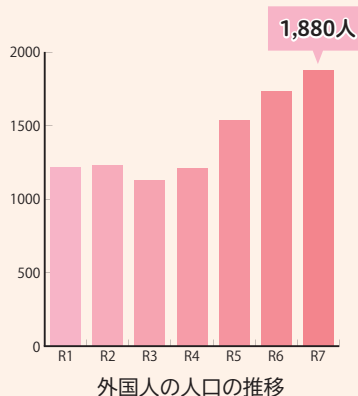


詳しくはこちら

八戸市の外国人の人口

市の住民基本台帳に登録された外国人の人数は、7年7月31日時点で1,880人と過去最多を更新し、市の人口212,988人の約0.88%を占めています。

国籍別の人数は、ベトナムが411人と最も多く、以下、フィリピン363人、インドネシア323人、韓国152人、中国・ミャンマーそれぞれ150人ずつ、その他331人となっています。



市・八戸国際交流協会の取り組み

市・八戸国際交流協会が実施している外国人向けの取り組みの一部をご紹介します。他にも、生活情報の提供や防災ガイドブックの配布、機関紙「りんぐりんぐ」の発行など、さまざまな支援を行っています。

▷外国人相談窓口



国際交流員などによる支援や多言語翻訳機の活用により、各種相談に対応しています。

▷日本語講座



基本的な日本語文法や語彙、会話について学ぶ日本語講座を対面・オンラインで行っています。

▷多文化交流ラボ「しゃべるべ」



多言語を通じてさまざまなアクティビティを楽しみながら、交流を深めています。

▷国際交流フェスタ



国際交流・多文化理解の推進とつながりを深める交流イベントを実施しています。

▷多文化理解交流イベント



地域に住む日本人と外国人がニュースポーツを通して交流するイベントを実施しました。

▷地域で育むBOSAI力講座



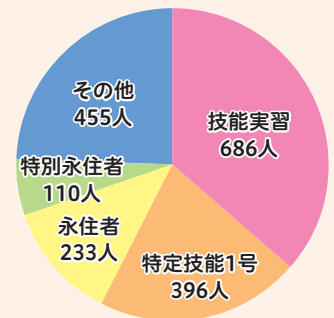
災害時に外国人が日本人と同じように対応できるよう、地域住民と共に防災について学ぶ講座を行いました。

地域で活躍する技能実習生

在留資格別の外国人の人数は、「技能実習」が最も多く686人、次いで「特定技能1号」が396人、以下「永住者」233人、「特別永住者」110人、その他455人となっています。

「技能実習」とは、日本で企業などと雇用関係を結び、出身国で修得が困難な技能などの修得・習熟・熟達を図る外国人向けの在留資格のことです。

今回は、(福)ファミリー ハピネスやくらで働いている、ミヤンマーから来た技能実習生の皆さんに、仕事や生活、将来の夢などについてお話を伺いました。



在留資格別の人数

職場の人はいつも明るくサポートしてくれるので、困ったことがあったら、相談しながら仕事をしています。仕事をしていてうれしかったのは、施設の入居者に感謝されたことです。

八戸での生活は、職場の人が助けてくれるので、不便なことはありません。過ごしやすいと感じています。

私は魚が好きなので、八食センターやスーパーによく魚を買いに行きます。八戸の魚は手頃な価格で、新鮮でおいしいです。

休日の楽しみは、友達と買い物をしたり、料理を作ったりすることです。また、家族と電話で話す時間も大切にしています。

将来の夢は、入居者にとって頼れる介護福祉士になることです。これからも介護の仕事を一生懸命頑張りたいと思います。

ザ・ニ・トゥンさん



日本に来る前は、日本語があまり分らなかったのですが、「相手が理解できるような会話をすることができないかもしれない」「私の話し方は失礼ではないか」という不安がありましたが、だんだん慣れてきて、今は自信を持って日本語を話しています。

日本人は真面目で優しい人が多いと感じます。仕事も丁寧で、周りに気を使っているところがすごいと思います。

八戸は海があって、自然が豊かなところが好きです。便利で生活がしやすく、食べ物もおいしいです。休みの日は、遊んだり映画を見たりして過ごしています。

今後の目標は、自分の介護技術を高めることです。そして、学んだことを生かして、帰国後も介護の仕事をしたいです。入居者が安心して過ごせるよう、優しく身の回りの世話ができる介護福祉士になりたいです。

ス・サンボ・ハンさん



日本で働くことが決まったときは心配でしたが、実際に働いてみたら、不安な気持ちはなくなりました。毎日楽しく働いています。施設の入居者に「ありがとう」と言われるとうれいだし、もっと仕事を頑張ろうと思います。

最初は日本語をうまく話せませんでしたが、入居者から「日本語が上手ですね」「頑張ってるね」と言われたことで、気軽に日本語を話せるようになりました。今ではスムーズに会話ができていると思います。

私は、海などの自然を感じられる場所が好きです。八戸では、蕪島がお気に入りの場所です。景色がきれいでいいなと思っています。

今は、介護福祉士の資格を取ることを目指しています。入居者が毎日笑顔で過ごせるようにサポートできる介護福祉士になりたいです。

ナン・オム・ムアンさん



ハピネスやくらで働いている実習生の皆さん

外国人と共に働く日本人

実習生と一緒に働いている職員の皆さんに、外国人との関わりなどについてお話を伺いました。



実習生の働きぶりとは？

一生懸命です。実習生の日本語も最初はぎこちなかったのですが、入居者と毎日会話をすることで上達して、今では方言も使えるようになりました。

印象に残っている出来事は？

実習生が地域の敬老会に呼ばれて、ミャンマーの踊りを披露したことです。地域の人を元気にするとともに、国際交流にもなり、良かったと思います。

外国人への配慮として、日本人にできることは？

外国人は居て当たり前だと思っています。日本人と同じように接するのが大事だと思います。

実習生と接するときに気を付けていることは？

私の話に対して、実習生の皆さんが「はい」と答えてくれるのですが、きちんと理解できているか確かめるために、「私がどのようなことを話したか、もう1回言ってみて」と聞き返すようにしています。

私たち日本人も、外国語で話しかけられると、よく分かっていない場合でも「はい」と言ってしまうことがあると思いますが、それと同じように、正しく理解できていなくても「分かりました」と言っているかもしれないので、再確認して、意思疎通を図るように気を付けています。

施設長
こいずみあけみ
小泉明美さん

実習生と関わってみて感じたことは？

皆さんとても素直です。てきぱき動いていて、働くのが好きなのだと感じています。日本語も上手で、たくさん勉強してきたことが分かります。

実習生がいることで、施設にとっての影響は？

実習生がいることで、入居者との話題が増え、新しい交流が生まれました。異なる文化に触れることで、施設全体が明るくなったと思います。

また、文化や価値観の違いを共有することで職員の視野も広がったと思います。

実習生と接するときに心がけていることは？

まずは実習生の話をよく聞くようにしています。そして、私が話すときは分かりやすい言葉で伝えるように心がけています。実習生と関わる中で、相手に合わせたコミュニケーションをとることの大切さを改めて学びました。お互いに理解しようとする姿勢が、より良い関係性を築くことにつながっていると思います。

また、家族に会えず、寂しさを感じていると思うので、休みが合ったら一緒に遊びに行くようにしています。

ユニットリーダー
きむらみずほさん
木村みずほさん

実習生と関わってみて感じたことは？

実習生は、分からない日本語があったらすぐに調べて理解しようと努力しています。遠く離れた地に来るというのは、大変なことだと思います。苦労しているのが分かるので、助けてあげたいと思っています。

実習生がいることで、施設にとっての影響は？

実習生がいることで、その場が明るくなります。実習生は、歌を歌って聞かせたり、紙芝居を作って読み聞かせたりしていて、入居者にとっても孫のようにかわいい存在だと思います。ミャンマーの料理を作ってくれたときはとてもうれしかったです。何かしてあげたいという気持ちは世界共通だと思いますし、そういう優しい気持ちは入居者に伝わっているのではないかと思います。

実習生と接するときに心がけていることは？

私の立場は上司ですが、実習生は親元を離れてきているので、母親のような感覚で接したいと思っています。「ご飯を食べているか」「ちゃんと寝ているか」など、生活の部分で困っていることがないか、配慮するようにしています。

外国人への配慮として、日本人にできることは？

日本人と同じ感覚で、1人の人間として接するだけだと思います。ハピネスやくらの実習生の場合は、日本語能力試験のN3・N4レベルを取得してきますが、外国人にとっては日本で生活すること自体が不慣れなので、困っていることがないか気にかけることも大切だと思います。

フロアリーダー
たかはしけいこ
高橋桂子さん

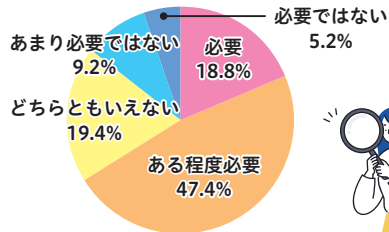
市民の皆さんと考える、多文化共生

八戸市多文化共生推進プラン策定に向け、市内在住の日本人・外国人・事業所の現状や意識などを把握することを目的に、7年9月16日～30日の期間で、アンケート調査を実施しました。

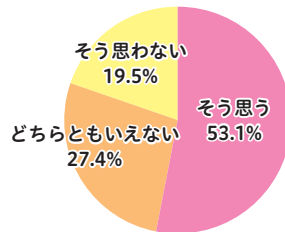


日本人アンケート

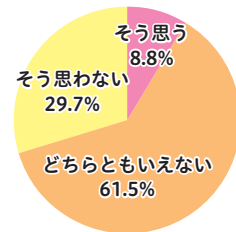
Q 外国人住民の声をまちづくりに反映させる仕組みは必要だと思いますか。



Q 外国人住民が増えることについて漠然とした不安を感じますか。



Q 八戸市では、日本人と外国人が協力し合う社会が実現していると思いますか。



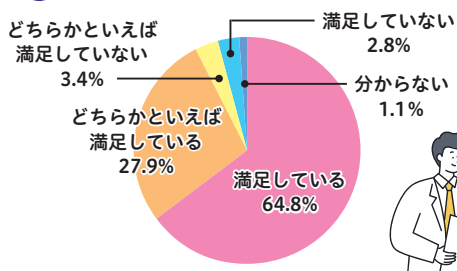
▷外国人住民の声をまちづくりに反映させる仕組みが「必要と感じる・ある程度必要と感じる」と回答した人の割合は約66.2%で、過半数の人が必要性を感じている。

▷一方で、外国人住民が増えることについて漠然とした不安を感じると回答した人は約53.1%となっている。

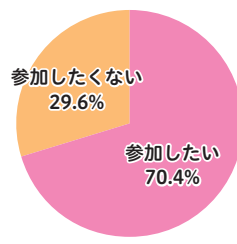
▷日本人と外国人が協力し合う社会が実現していると回答した人は約8.8%と少ない。

外国人アンケート

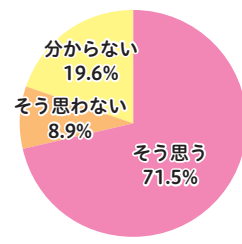
Q 八戸市での生活に満足していますか。



Q 地域の日本人と外国人が交流するイベントに参加したいですか。



Q 八戸市では、日本人と外国人が協力し合う社会が実現していると思いますか。



▷八戸市での生活に「満足している・どちらかといえば満足している」と回答した人は約92.7%で、外国人にとって住みやすいまちと考えられる。

▷地域の日本人と外国人が交流するイベントに参加したいと回答した人は約70.4%であり、交流の場の拡大が求められている。

▷日本人と外国人が協力し合う社会が実現していると回答した人は約71.5%で、日本人とのギャップがある。

事業所アンケート

▷外国人材を雇用した効果として、人材確保の安定化を挙げた事業所は約86%となっている。

▷外国人を雇用している上での課題として、コミュニケーションと回答した事業所は約62.8%、生活支援と回答した事業所は約46.5%となっている。

▷市に行ってほしい取り組みとして、日本語教育を挙げた事業所は約58.1%、住宅・生活支援を挙げた事業所は約55.8%となっている。

八戸市多文化共生推進プランの策定に向けて

八戸市に住む日本人と外国人が、文化や習慣の違いを理解し、互いに尊重・協力し合い、誰もが安全・安心で豊かに暮らすことを目指して、八戸市多文化共生推進プランの策定に取り組んでいます。

住民が協働してまちづくりに参画できるよう、このプランを道しるべとして多文化共生を推進していきます。



審議会の様子



ワークショップの様子